

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月29日

【評価実施概要】

事業所番号	3770102824
法人名	株式会社ケアサービス長谷川
事業所名	グループホームミモザ
所在地	香川県高松市新田町甲2128-1 (電話)087-844-8775

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年6月20日	評価決定日	平成20年7月29日

【情報提供票より】(平成20年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年3月16日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	19人 常勤 1人 非常勤 17人 常勤換算 12.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造 1階建て
------	------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	18,500円	
敷金	有(200,000円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有()円	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400円	昼食	650円
	夕食	600円	おやつ	0円
	または1日当たり			

(4) 利用者の概要(平成20年6月1日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	2名	要介護2	4名		
要介護3	6名	要介護4	4名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 87歳	最低	69歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ふじさわ医院	屋島伊藤クリニック	はた医院	渋谷歯科医院
---------	--------	-----------	------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームはのどかな環境の中に立地しており、広い外庭や、季節の野菜を植えた畑を楽しみに散歩することもできる。ホーム内にも中庭があるため、明るく、開放感があり自由に入出入りもできる。職員は利用者と、明るく暖かい雰囲気ですぐに接し、近隣の方とも、地域の一員としての自覚を持ってあいさつを交わすなどしている。利用者には、生活歴を生かした役割をホーム内で持てるよう、その人らしい暮らしを支援しているホームである。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価で課題となった、理念の共有、評価の意義の理解と活用、家族への報告、職員を育てる取り組みなど、職員一人ひとりがさまざまな意見を出し合い、改善への取り組みを行ってきた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各ユニットに大きな特徴があり、それに対する取り組みをそれぞれの管理者が評価している。自己評価を行うことは、サービスの質の向上を図るための一つの方法でもあるため、全員で取り組むことを期待したい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>入居者をはじめ、家族、自治会などの代表者や行政の担当者の参加が毎回あり、それぞれの立場からケアの内容や行事についてなど、質問や提案が出されている。ホームの現状報告を踏まえ、さらに地域との交流が活発になるような提案などが、会を重ねるごとに出来るようになってきている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>普段の面会時にも意見をうかがうよう職員の方から声をかけている。希望のある遠方の家族に対しては、ホームページに個人ごとのパスワードを入力すればその家族のみが閲覧できるシステムとしており、日常の様子を写真や文章で報告し、不安軽減の一つの方法として喜ばれている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しており、お互いに地域の住民である意識づけが持てるよう、避難訓練を一緒に行うなどの取り組みを行っている。また、災害時には地域の第2避難場所として協力要請を受けるなど地域の一員として重要な役割を担うようになっている。近隣の方がさまざまな特技を持ち訪問に来られるなど、次第に交流も広がりがつつある。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念に基づき、利用者が自分の地域の中にあるホームで、自分らしく暮らしていくことを支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送りの時間などには、理念に基づいた情報交換や意見の交換が活発に行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入することにより、地域の一員である意識が高まっている。地域の行事やホームの行事お互いに参加し、その回数も次第に増えてきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、職員の意見も反映させながら2つのユニットの特徴を踏まえた評価を行っている。	○	職員は、評価に対し意見は述べているが、その内容や意義は十分理解できていないため、今後は、職員全員でケアの質向上につながるような取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームから、利用者の状況を報告することにより、地域の方からも意見や質問が出るなど、理解の深まりがみられるようになった。また、出された意見はすぐに検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者などとも、共に利用者のサービスの質向上に取り組むための、意見交換が持たれるようになった。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会の度に日常の様子を報告したり、金銭管理は出納帳を提示し、確認してもらったりしている。会社報で、毎月のホームの様子を伝えている。また、遠方の家族の希望者にはホームページにパスワードを入力すれば、家族の様子が写真やことばで見ることができるサービスも実施している。	○	面会時の口頭報告だけでなく、定期的な相談、連絡、報告ができるようなサービスについても検討が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の度に意見をうかがうようにしている。また、運営推進会議においても意見がいただけるようになり、その場で返答するとともに、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年度は、会社において他事業の開設もあったが、ホームの職員の異動は極力少なくし、利用者への馴染みの関係に影響がないような配置や連絡調整を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて、毎月の社内研修の他、社外での研修の機会も設け、職員の育成に力をいれている。研修状況は記録し、意欲向上につなげている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社外での研修などに参加した場合は、交流の機会ととらえ、積極的に意見交換している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、本人や家族にホームに来ていただき雰囲気を感じてもらおうようにし、不安なことがあれば、職員との面談において解消し、馴染みながら入居できるよう支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のできることは、できるだけ一緒にしていただくようにしている。共に笑い合い、励ましあう場面もあり、互いに支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの会話の中で、利用者がどのような希望や意向を持っているか、把握するよう努めている。また、家族からも昔の情報などをいただき、あわせて検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族から希望や意見をうかがい、利用者の立場になり話し合っている。朝の申し送りの時間を活用して、各専門職の立場から意見を出し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	手軽に使えるようなアセスメントシートを工夫し、月1回モニタリングを行っている。また、利用者に変化があった場合は、状況の変化に対応した介護計画書を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や本人のさまざまな要望に対応できるようにしている。隣接の訪問看護事業所から、看護に関する助言を受けたり、福祉用具の貸与事業者からは、福祉用具についての助言を受けるなど、ケアの向上に活かしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族の希望があれば、これまでのかかりつけ医の医療が受診できるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの研修を行い、作成したターミナルケアの指針は職員全員が内容を共有しており、入居の際には家族に説明を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を傷つけるような言動がないよう、経営理念としても利用者一人ひとりを大切にするをうたっている。また、母体の会社が「個人情報保護規定」を定めており、各事業所で厳守して励行している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人からうかがったり、家族からの情報や普段の言動から、利用者の希望する過ごし方ができるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みのものを提供できるよう支援している。また、食後の片付けなども一緒に行っている。	○	一つのユニットで両ユニットの食事を作っているが、メニューによって可能な場合は、温めなおして目の前でつぎ分けるなどの検討を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日中はいつでも入浴できるように準備している。また、機械浴槽を設置しているので、身体の状態にあわせてゆっくと入浴が楽しめる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	華道の師範をしていた利用者には玄関の花を飾る役割をお願いをするなど、生活歴を生かした支援を行っている。また、軽い運動や一人ひとりのペースで楽しめる気晴らしなども支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地内には広い庭や畑があり、玄関には鍵もないため、自由に出入りできる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていないが、状況確認のために、チャイムは鳴るようにして、事故などの防止には配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員、利用者は、一緒に定期的に防火訓練を行っている。利用者は、年1回の夜間、昼間を想定した避難訓練にも参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎日記録している。水分も不足しないよう日常的に支援し、管理栄養士と個々に応じた食事を提供できるよう、献立を含めた話し合いをもっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭があるため、ホーム全体に自然な明るさがある。トイレは2部屋の間に1つ設置されていて、居室を出るとすぐ使用できる安心感がある。また、車椅子でも使いやすい広さのトイレや入浴も座位で可能な設備が整っており、身体に障害があっても居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具を置くなど、一人ひとりのこれまでの生活を重視した部屋作りに心がけている。		